轟木小

主体的に学び合う力の育成

～複式・少人数における問題解決の力を育成する授業実践を通して～

（３年計画の３年次）

校長　　堤　　司

１　研究主題について

本校では、教育目標である「いきいき学びあう子」「なかよくふれあう子」「ほん気できたえあう子」の具現化のために、「主体的に学び合う力の育成」を研究主題とし、解決の見通しをもたせるための課題提示の工夫と ICT の活用について研究を進めてきた。その結果、問題提示の方法を工夫したり学習の焦点化を図ったりするなどの手立てを講じることが、問題解決への意欲や見通しにつながり、一人一人に自分の考えをもたせることができた。また、学年の実態や学習場面に応じて ICT の活用方法を工夫したことで、児童が情報を整理したり考えを共有したりすることができた。

しかし、話合いの場面において、自分の考えを伝えることはできるものの、考えを広げたり深めたりすることが十分ではないことが課題として挙げられた。児童が考えを広めたり深めたりするためには、問いの意識や意欲をもたせたり、自分の考えや立場をはっきりとさせたりしながら、問題解決の必要感や切実感を高めることが必要であると考える。話合いの前段階において、自分の考えを伝えたい、友達の考えを聞きたいという気持ちの高まりが見られるように指導の工夫をしていかなければならない。

そこで、今年度は、導入場面でしかけを講じながら、児童が問いへの意欲を高めたり、課題解決までの見通しをもてるようにさせていきたい。また、話合いの場面において、児童の必要感や切実感を喚起し、互いの考えを広げたり深めたりすることができる指導の工夫をし、「主体的に学び合う力」を目指していきたい。

２　研究のねらい

自分の考えをもち、進んで問題解決するための効果的な指導の在り方を授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

進んで問題解決するための指導方法を工夫することにより、主体的に学び合う力を育てることができる。

４　研究内容

(1)　問題解決への意欲と見通しをもたせるための導入場面の工夫

(2)　互いの考えを広げたり深めたりするための話合い場面の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年　・　授業者等	全体会等
６	７	第１回授業研究（５・６年）　授業者　高島　庸 算数　５年「整数÷小数」　６年「逆数」	
６	２３	八戸市教育委員会教育指導課・総合教育センター訪問	
７	１９	第２回授業研究（１・２年）　授業者　山田　訓子 国語　１年「すきなもの、なあに」　２年「夏がいっぱい」	
１１	８	八戸市小学校教育研究協議会(2)複式教育分科会 兼　三八へき地・複式教育研究大会 授業者　中川　健郎 算数３年「１けたをかけるかけ算の筆算」４年「がい数のたし算・ひき算」 授業者　高島　庸 算数５年「単位量あたりの大きさ」６年「拡大図と縮図のかき方」	
１２	１３	第３回授業研究（３・４年）　授業者　中川　健郎 算数　３年「分数のたし算・ひき算」　４年「見積もりを使って」	

(2)一般研修

月	日	内容　・　講師
４	２６	「算数科の複式指導について」 講師　八戸市総合教育センター　副所長　松橋　祐哉先生
１２	２０	「複式指導について」 講師　八戸市立多賀台小学校　教諭　類家　直人先生
１	１０	ＡＥＤ心肺蘇生法に関する研修　講師　八戸消防署桔梗野分遣所
２	８	県学習状況調査結果の考察　本校教諭　中川　健郎

６　研究の成果

(1) 導入場面での意図的な誤答、問題文や図の一部、短時間の提示等の工夫は、問題解決への意欲と見通しをもたせるには効果的だった。

(2) 少人数のよさを生かし、全員が発表する場を設定して話し合わせることは、自分の考えを伝えようという意欲につながった。さらに多様な考え方に触れ、互いの考え方を比較することで、それぞれの考え方のよさや違いに気付くことにもつながった。

７　研究の課題

(1) 学び合いにつなげるために、解決方法の見通しだけではなく、話合い場面のゴールのイメージができるような焦点化しためあてや見通しについても考えていきたい。

(2) 考えの深め方や広げ方のイメージをはっきりさせながら、話合い場面の質を高めたい。さらに、互いの意見を交流しながら、話し合わせるための手立てについて考えていく必要がある。

（記入者　高島　庸）